

- **国民の「食の安全・安心」に対する関心は高く、農産物の安全性確保は極めて重要な取組みとなっている。**また、経営安定のために差別化による販売力の強化が課題
- 平成30年度、山形県版GAPの創設にともない、講習会等での**GAPの周知、取得意向のある団体への支援**
- その結果、**①山形県版GAP:5件 ②JGAP:2件(肉用牛経営体)取得**  
(品目の内訳:すいか2件、米2件、キャベツ他1件、肉用牛2件)
- また、各研修会等でGAPの周知・普及を行った結果、**生産者の認知度は向上し、GAPに取り組む生産者が増加**

## 具体的な成果

## 普及指導員の活動

## 1 第三者認証の取得状況

**①山形県版GAP・・・5件**

平成30年度・・・2件

(すいか1件、米1件)

※**やまがた県版GAP第1号に「JAみちのく村山すいか生産部会山形県版GAP研究会」が認証登録**

令和元年度・・・3件

(キャベツ他1件、すいか1件、米1件)

**②JGAP・・・2件**

平成30年度・・・1件 肉用牛

令和2年度・・・1件 肉用牛

## 2 GAP取組み状況

・やまがた農産物安全・安心取組認証制度の取組組織：**5団体**

・環境保全型農業直接支払交付金対象農家：**135名**

・「雪若丸」生産農家：**233戸**

## 3 GAP農産物のPR

・地元プロスポーツチームのホームゲームで、**農産物の振る舞いと合わせ、PRを行った。**

・認証団体が出荷している直売所や大型量販店での**GAPコーナーを設置しGAP農産物を販売**

・のぼり旗を作成し、各種イベントで使用して広くGAPのPRを実施

## 1 GAP取得・更新の支援

[平成30年～令和2年]

■東京オリ・パラ大会への食材供給に興味がある団体に対し、**関係機関と連携し個別に掘り起こしを実施**

■GAP取得意向の団体に対し、**取得・更新審査に向けて支援**

## 2 GAPの普及・啓発

[平成30年～令和2年]

■**各種講習会、たより等を活用しGAPの周知を図る。**

■GAP取組団体へ個別に研修会等の開催し、認知度の向上、県版GAP並びに国際水準GAP取得への誘導を図る。

■GAP農産物の周知のために、各種イベント、量販店、直売所での販売を支援

## 普及指導員だからできたこと

- ・**日ごろの活動で、生産団体の状況を把握**しており、どの団体がGAPの取組の意向があるか迅速に絞り込み、スムーズな認証取得に繋がった。

山形県版GAP圃場審査  
(すいか)GAP農産物のPR  
(すいかの振る舞い)

## GAP の普及啓発と推進

活動期間：平成 30 年～令和 2 年度

### 1. 取組の背景

国民の「食の安全・安心」に対する関心は高く、農産物の安全性確保は極めて重要な取組みとなっている。

本県では平成 30 年度に、多くの県産農産物を東京 2020 オリ・パラ大会に供給するために、①「食品の安全性確保で獲得する信頼」②「環境保全で持続可能な農業生産活動を実現」③「作業者の労働安全で安定した農業経営の実現」3つの柱で山形県版GAPが創設された。推進体制として「山形県GAP推進協議会」を設置し、関係機関、団体が一体となって山形県版GAPの取組み拡大、認証取得促進を図っている。

やまがた農作物安全・安心取組認証制度では、山形県版GAP(農水省ガイドライン準拠)の取組みを要件化しており、認証団体等に対するGAPの取組みに関する支援が求められている。

水稻新品種「雪若丸」の栽培要件として、GAP、特別栽培、有機栽培のいずれかの取組みが必要となっている。

### 2. 活動内容（詳細）

- 1 GAPの普及、啓発（農業者、認証取得¥志向団体、消費者）
  - ・普及日より等チラシを作成しGAPの効果や取組みについて紹介、周知した。
  - ・各栽培研修会等を活用しGAPについて周知を図った。
  - ・モンテディオ山形ホームゲームでGAP認証すいかの振る舞いを実施しPRを行った。
  - ・JAの産直店、地元量販店で、GAP商品の特設コーナーを設置し販売を実施した。
  - ・「雪若丸」栽培管理研修会で県版GAPチェック表の配布、GAPに関する研修を行った。
  - ・環境保全型農業直接支払い交付対象者にGAPの研修を行った。
- 2 GAPの第三者認証取得、改善支援
  - ・GAPを導入し、持続可能なより良い農業経営を目指し第三者認証を取得する意向がある団体に対し、研修会や個別指導を行い登録認証に向けた支援を行った。
  - ・オリンピック、パラリンピックへ食材の提供を目指す団体に対し、研修会や内部監査の補助等を実施し登録認証、更新に向けた支援を行った。また、食材の提供に向けた情報提供を行った。

以上において、GAP 拡大の推進事業を活用している。



山形県版GAP圃場審査（すいか）  
（尾花沢市）



GAP認証すいかの振る舞い  
（モンテディオ山形ホームゲーム）

### 3. 具体的な成果（詳細）

#### 1 第三者認証の取得状況

①山形県版GAP：5件 ②JGAP：2件（肉用牛経営体）

（品目の内訳：すいか2件、米1件、酒米1件、キャベツ他1件、肉用牛2件）

※やまがた県版GAP第1号に「JAみちのく村山すいか生産部会山形県版GAP研究会」が認証登録された。

#### 2 GAP取組み状況

- ・やまがた農産物安全・安心取組認証制度の取組組織：5団体
- ・環境保全型農業直接支払交付金対象農家：135名
- ・「雪若丸」生産農家：233戸

### 4. 農家等からの評価・コメント

（ひがしね王様キャベツの雪太郎普及会 駒沢氏）

GAPについては、特に安心安全な青果物を生産するという点に共感し、山形県版GAPの認証を取得しました。「消費者に安心安全なものを提供する」ということは農業者の使命だと思っています。HACCP義務化など、青果物はこれまで以上に安全なものを確実に生産することを求められています。今後はJGAP認証も取得し、経営改善にもつなげていきたいです。国や県では今後もGAPの取組み支援や、流通関係者、消費者に対するPRを進めて欲しいです。

### 5. 普及指導員のコメント

（山形県村山総合支庁産業経済部北村山農業技術普及課 島貫源基）

当初、GAPの説明会を開催すると生産者からは厳しい意見も出されましたが、研修会等を重ねGAPの趣旨を理解し、実際に取り組んで行くと、メリットもわかり、これからは必要な事と考えも変化してきました。これからも、農業を行う上でGAPが当たり前になるように活動します。

### 6. 現状・今後の展開等

- ・GAPの普及、啓蒙による普及拡大

- ・新たな認証取得希望団体の掘り起こしの継続
- ・やまがた県版GAP認証団体の国際水準GAP認証への誘導